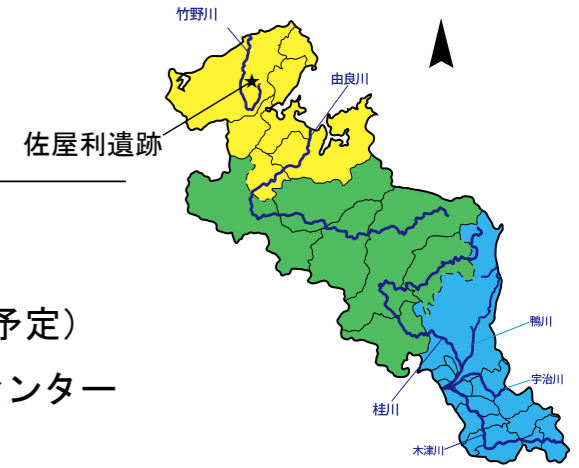


さ や り 佐屋利遺跡



調査場所 京都府京丹後市峰山町新町・荒山
調査期間 令和3年5月12日～令和4年2月中旬(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



佐屋利遺跡は、丹後半島内陸部の、中郡盆地北東部の扇状地上に位置する遺跡で、奈良時代の土器の散布地として知られていました。調査地周辺には、弥生時代の集落遺跡である扇谷遺跡や途中ヶ丘遺跡、中世の山城である荒山城跡や新町城跡が分布しています。

佐屋利遺跡空中写真(西から)



最大長 33.5cm、最大幅 14.5cm、最大厚 1cm



最大長 31.5cm、最大幅 12.5cm、最大厚 1cm

写真6 大型石包丁

大型石包丁は、弥生時代中期の1期の溝2から上下にほぼ重なった状態で出土しました。使用されている石材は丹後地域で産出する軟質な凝灰岩です。刃部は丁寧に研がれています。②には紐などを通すための孔が2ヶ所あけられています。普通サイズの石包丁は稲穂の収穫に用いられましたが、この大型石包丁は稲株の刈取りに用いられたと考えられています。丁寧に扱われていることから、マツリの道具などに用いられたのかもしれませんが。

完全な形の大型石包丁は京丹後市上野遺跡でも採取されています。また、近隣の弥生時代の集落跡である扇谷遺跡や途中ヶ丘遺跡でも大型石包丁の破片が出土しています。

まとめ

1区では、柵、掘立柱建物などの平安時代末から鎌倉時代の集落跡の一部を発見しました。また、自然流路内では同時期と考えられる木組み遺構を検出しました。

3区では、弥生時代中期の溝や柵、竪穴建物などからなる集落跡を検出しました。竪穴建物に隣接する溝からは完形の大型石包丁のほか、絵画土器が出土しました。これらは、出土例の少ない遺物で、当時の人々の暮らしや祈りを考えるうえで貴重な資料であるといえるでしょう。



図2 調査地周辺の主な遺跡

時代	できごと
旧石器時代	
縄文時代	
弥生時代	3区 竪穴建物1・2・3、柵1 溝1～15 竪穴建物跡4・5
古墳時代	
飛鳥時代	
奈良時代	
平安時代	1区 掘立柱建物1・2、柵1 木組み遺構
鎌倉時代	
南北朝時代	
室町時代	
安土桃山時代	
江戸時代	
近代	



はじめに

今回の調査は、国道312号新設工事に伴い実施しています。調査では東部の1区で中世の集落、西部の3区で弥生時代中期の集落の様子が明らかになりました。中央部の2区は現在調査中です。

1区

平安時代末から鎌倉時代にかけての柵1条、掘立柱建物2棟、自然流路1で、護岸のためと考えられる木組み遺構1基を検出しました。また、この地区では背後にある丘陵地からの土砂流が見つかりました。その中には、中世の土師器や陶磁器のほか、櫛くし、下駄まげおけ、曲桶などの木製品が含まれていました。中世の遺構が土砂流の上で見つかったことから、土砂流の発生が少なくなって地盤が安定し、集落が営まれたことがわかりました。

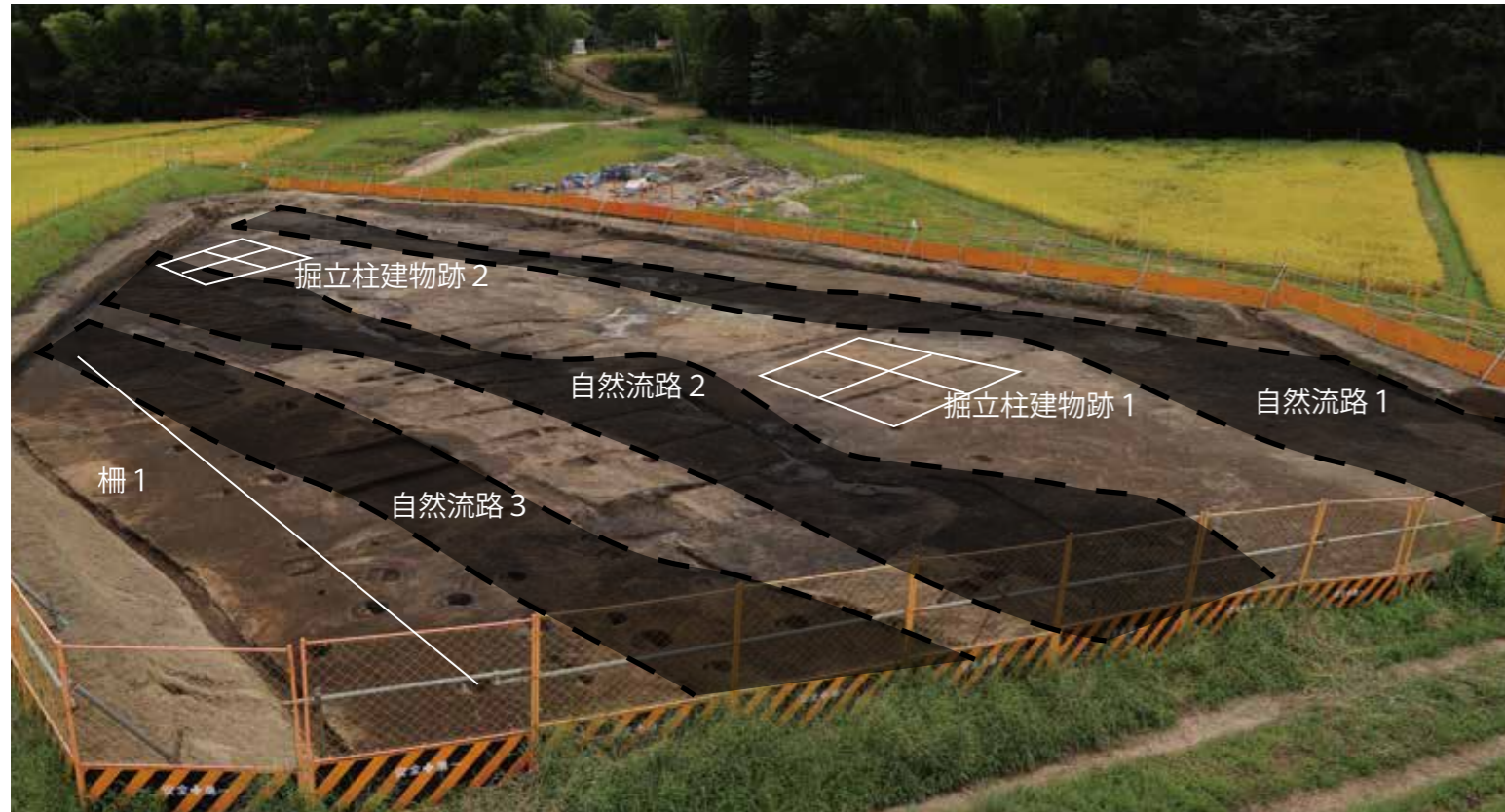


写真1 1区全景（北西から）

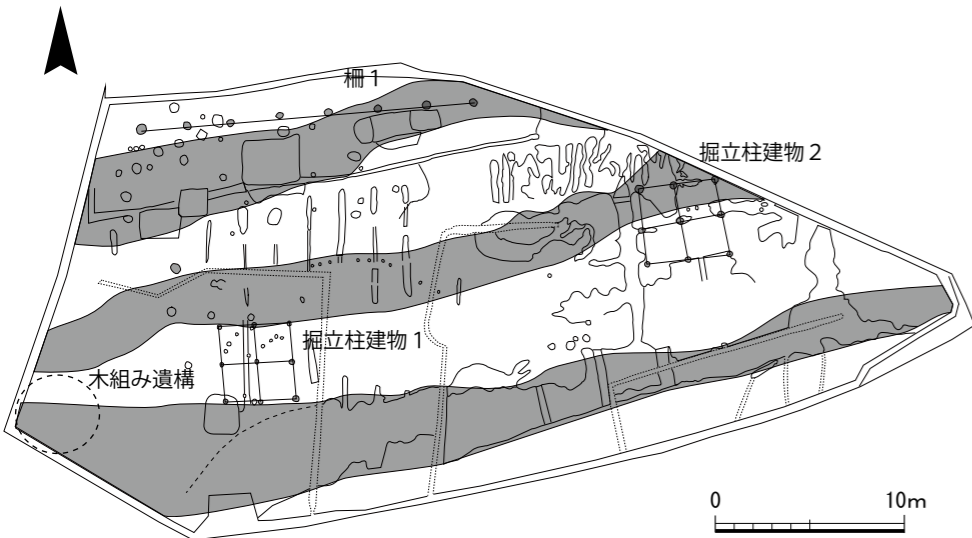


図1 1区平面図（網掛け部分は自然流路）



写真2 木組み遺構（東から）

3区

調査区の西側を中心に、弥生時代中期と古墳時代の遺構を検出しました。弥生時代中期では、溝15条や竪穴建物3基などが見つかり、遺構の前後関係から3期に分けることができます。1期の遺構には、ほぼ南北方向に主軸を持つ溝3条と東西方向の溝1条、直径約9mの円形竪穴建物1基、土坑1基があります。竪穴建物に近い溝2からは大型石包丁が2点出土しました。2期の遺構には、溝5条、竪穴建物2基、溝9の西に並行する柵1条があります。3期の遺構には、1期と同方向の溝6条があります。古墳時代の方形竪穴建物2基がありますが、後世の削平によって一部しか残っていませんでした。

出土遺物には多数の弥生時代中期の土器があり、絵画土器の破片が含まれていました。

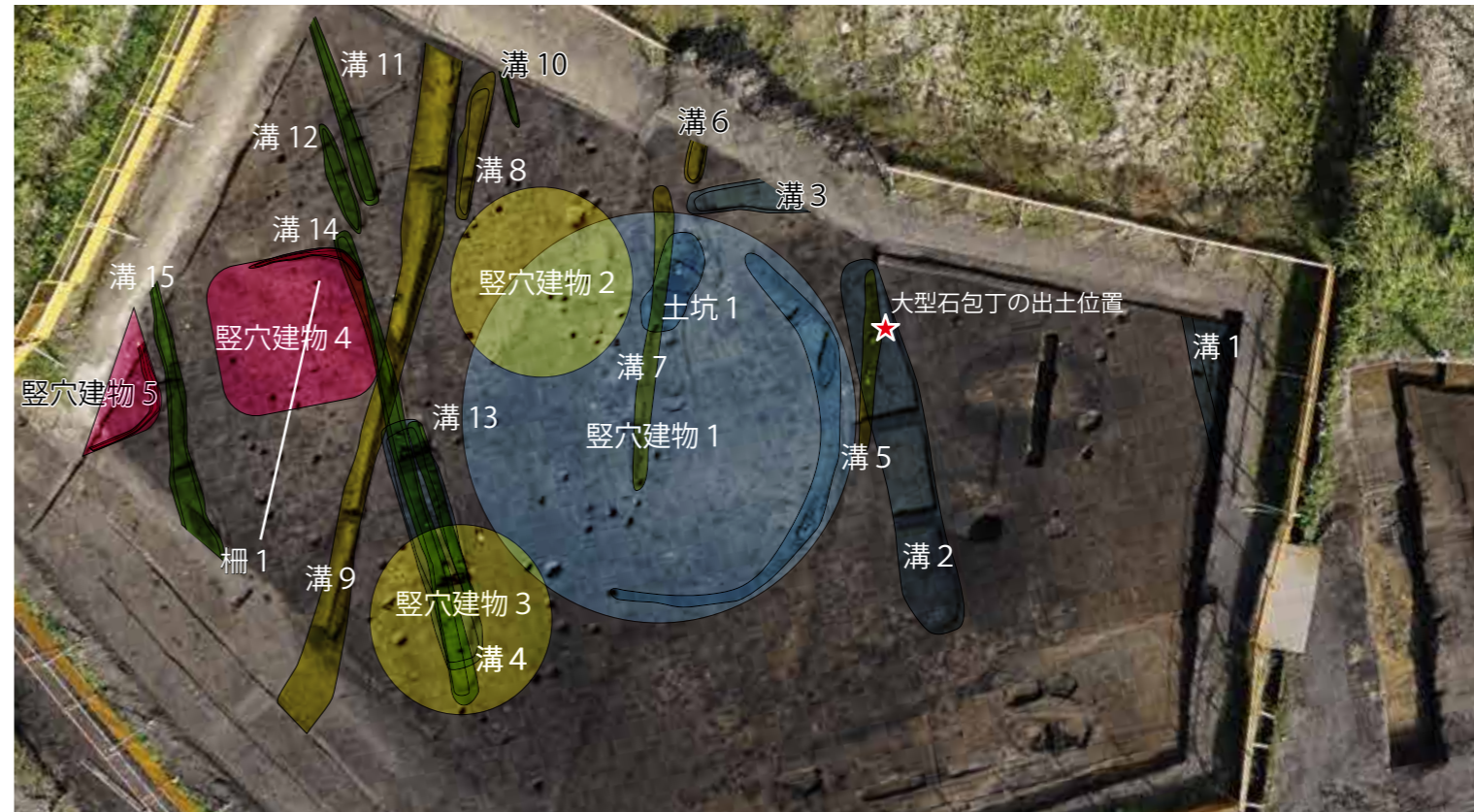


写真3 3区遺構検出状況（空中写真 上方が北）

- 1期の遺構
- 弥生時代中期
- 2期の遺構
- 3期の遺構
- 古墳時代の遺構



写真4 大型石包丁出土状況（西から）



写真5 絵画土器